DogRun!

同僚殺しの汚名を着せられた警官と、彼の追跡を命じられた警官。追うイヌと追われるイヌが、悪党ばかりの街を駆けまわりながら、ハウンドに巣食う真の悪に喰らいつく！

（掲載日：2016.2.23）

プレアクト情報

PRE-ACT INFO

■シナリオ基本情報

▼作者

SONE（twitter：@sone_99）

▼プレイヤー人数

２人

▼想定プレイ時間

２～３時間

▼シナリオタグ

警察、２人用シナリオ、ダブルハンドアウト

●このシナリオについて

本シナリオは、警察組織内部の殺人事件を取り扱った警察サスペンスだ。２人用シナリオで両キャストがどちらもイヌの推奨スタイル、かつダブルハンドアウトと、中々トリッキーなシナリオになっている。

しかし、内容は非常に分かりやすく、遊びやすい造りになっている。追うものと追われる者の緊張感を描きつつも、爽快に遊ぶことができるだろう。

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし､使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

▼使用経験点

０～５０点

▼使用サプリメント

『TOS』『CTL』『BHD』

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

世の中、どっちを向いても悪党ばかり。
それは警察組織においても例外ではない。
ブラックハウンド隊員による同僚殺害事件。
その裏には、警察内部にはびこる悪意のネットワークがあった。
事態の渦中には２匹のイヌ。
逃げるもイヌ、追うもイヌ。
やれやれ、今夜はイヌがやけに吠えるぜ！

トーキョーN◎VA THE AXLERATION
『DogRun!』

正義なき世に、運命の扉は開かれる。

改定情報

16.02.24　不具合修正

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。
『①イヌ』：正義の猟犬（『TNX』p.84）
『②イヌ』：監察医（『BTD』p.60）

●ダブルハンドアウトについて

本シナリオはダブルハンドアウト（『BTD』P.36 参照）を使用している。まずプレイヤーにペルソナ・ハンドアウトを選んでもらい、その後対応するキー・ハンドアウトを伏せて配ること。

本シナリオのダブルハンドアウトは、オープンタイプである。

●必要な神業

推奨スタイルの神業の他に、防御系神業が１個あると望ましい。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する技能は〈社会：警察〉などである。

■キャスト間コネクション

『①イヌ』と『②イヌ』で相互に取得すること。

(*1)『①イヌ』と『②イヌ』の表記

『TNX』公式シナリオの慣例に倣った表記だが、若干わかりにくい（申し訳ない）誤読に注意せよ。テキストファイルを使用して遊ぶ場合、『①イヌ』と『②イヌ』の箇所を、キャストの名前に置換して遊ぶとよいだろう。

ペルソナ・ハンドアウト

本シナリオは「ダブルハンドアウト・ルール（『BTD』p36）」を採用している。ペルソナ・ハンドアウト選択後に配布されるキー・ハンドアウトを参照してからキャストを作成すること。(*1)

各キャストには、以下の設定が推奨・追加される。
『①イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課
『②イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課

ペルソナ・ハンドアウト

①推奨スタイル：イヌ

PERSONA HANDOUT

コネ：ロウ・シェパード　推奨スート：外界

キミはブラックハウンド機動捜査課の隊員だ。だが今、キミは獲物を追う猟犬ではなく、追われる立場となっていた。同僚ロウ・シェパードの殺害犯に仕立て上げられてしまったからだ。無実を主張しても、誰も聞く耳など持たない。キミは制止を振り切って逃走した。

【初期 PS：無実を証明する】

ペルソナ・ハンドアウト

②推奨スタイル：イヌ

PERSONA HANDOUT

コネ：“暴走課長”レイ　推奨スート：感情

キミはブラックハウンド機動捜査課の隊員だ。イヌ（イヌ）たちにとって最大のタブー、同僚殺し。『①イヌ』が、その禁忌を犯して逃走した。機動捜査課のレイ課長は、キミに追跡を命じた。同僚の不始末には、自分たちでケリをつける。それがキミの正義だ。

【初期 PS：『①イヌ』を裁く】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

ブラックハウンド内の汚職警官による秘密組織ワイルドハント。彼らは収賄や押収品の横流し、時には暗殺まで、様々な犯罪に関わってきた。法を犯した警官を、脅迫によって仲間に引き込むことで、この犯罪ネットワークはじわじわと拡大。今やブラックハウンドのあらゆる部署に巣食っていた。このワイルドハントの全貌を掴むための作戦が始まっていた。

『①イヌ』の友人にして同僚ロウ・シェパードは、実は特別監察室のスパイだ。汚職警官を装ってワイルドハントにスパイとして潜入していたが、正体を知られ、殺害される。ロウは死の間際、『①イヌ』にワイルドハントのメンバーのリストの存在を伝える。ワイルドハントは『①イヌ』をロウ殺害犯として手配、リストを奪回し闇に葬ろうとする。機動捜査課に潜伏するもう一人の特別観察室のスパイ『②イヌ』もまた、真相究明のために行動を開始する。

ワイルドハントの正体は、内部監査を担当する公安４課が、内偵で得た資料を利用して構築したネットワークだ。リストを手に入れて真相を暴き、４課の汚職警官たちを裁くことで終了となる。

■クライマックスの条件

【ワイルドハント】【捜査記録】の情報を手に入れることで、クライマックスフェイズに移行する。

■質疑応答

ダブルハンドアウトを配布したのち、RLはそれぞれのプレイヤーに個別に連絡し、質問に回答したり、RLの要望を伝えること。

●『①イヌ』について

孤立無援の状況で真相を探す、というサスペンス色の強いハンドアウトだ。

ロウを殺し、『①イヌ』に濡れ衣を着せた汚職警官組織のメンバーは、どこにいるか解らない。周囲はみな敵だらけであることを強調すると盛り上がるだろう。

なお「汚職警官かどうか解らないエキストラやトループと戦ったり、倒す」ことに抵抗を覚えるプレイヤーもいる。その場合、「敵対的なイヌのエキストラやトループは、みな汚職警官である」と伝えるとよい。

ロウのキャラクターについては、「壮年の男性」「別部署に属する実直で気のいい友人」「別れた妻との間に子どもが一人いる」と説明せよ。

●『②イヌ』について

ふたつの部署に所属するという、複雑な背景を持ったハンドアウトだ。

プレイヤーが特別監察室という組織に馴染みがなく、戸惑うこともあるだろう。その場合、『BTD』p. 27の特別監察室、および同p. 32の加賀美亨の解説を読んでもらうこと。

キー・ハンドアウト

本シナリオは「ダブルハンドアウト・ルール（『BTD』p36）」を採用している。RLはペルソナ・ハンドアウトの配布が完了した後、それぞれに対応したキー・ハンドアウトを配布すること。

各キャストには、以下の設定が推奨・追加される。
『①イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課
『②イヌ』：ブラックハウンド特別監察室の潜入捜査官

キー・ハンドアウト

①推奨スタイル：イヌ

HEY HAND●UT

コネ：ロウ・シェパード 推奨スート：感情

▼開示条件：情報【ロウの隠したもの】を調べた
▼情報：【ロウの隠したもの】（いつでも）

死んだロウはキミの友人だった。彼は密かにハウンド内にはびこる汚職警官の組織を探っており、口封じのために殺された。死の間際、ロウは奴らのメンバーリストをどこかに隠した。奴らはキミに濡れ衣を着せ、リストを探している。こうなれば先んじてリストを手に入れ、汚職警官たちを告発するしかない。

誰も信じるな。奴らはどこにでもいる。『②イヌ』だってそうかもしれないのだ。

【新規PS：汚職警官たちを告発する】

キー・ハンドアウト

②推奨スタイル：イヌ

HEY HAND●UT

コネ："不信官" 加賀美亨（『BTD』p.32） 推奨スート：外界

▼開示条件：情報【汚職警官たち】を調べた
▼情報：【汚職警官たち】（いつでも）

キミの本当の所属部署は、ブラックハウンド特別観察室。別部署に潜入し、汚職や不正を捜査するのがキミの仕事だ。真の上司である室長・加賀美亨からの指令は、殺されたロウ・シェパードの死の真相を探ること。ロウもキミと同じ警察内スパイで、汚職警官たちの組織に潜入していた。ロウを殺したという『①イヌ』は、汚職警官の一人である可能性がある。他の部署より先に接触しなければならない。

【新規PS：真相を突き止める】

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1：逃げるイヌ

シーンプレイヤー：『①イヌ』

登場：『②イヌ』は登場不可

◆解説

『①イヌ』のオープニング。ロウ殺しの濡れ衣を着せられ、逃走するシーン。

登場するブラックハウンド隊員は、みなワイルドハントの汚職警官たちだ。ロウ殺しの濡れ衣を着せ、『①イヌ』を殺すつもりだ。彼らはエキストラなので、宣言のみで突破し、逃走できる。

逃走後、『①イヌ』に《制裁（パニッシュ）》が使用される。もちろんダメージは［21：guilty-有罪］だ。真犯人“ドッグイーター”（ゲストデータ参照）が、濡れ衣を着せるために使用したものだ。

◆描写

ブラックハウンド基地の外れで、『①イヌ』は血まみれのナイフを手に立ち尽くしている。足元には、首を切り裂かれた死体。そこにハウンド隊員たちが駆けつけてくる。

▼セリフ：ブラックハウンドたち（汚職警官）

「おいお前、そこで何をしている！？」

「機動捜査課の『①イヌ』か。てめぇやりやがったな！」

「こっちの死体は……何てこった、ロウだ。組織犯罪課のロウ・シェパードだ。くそっ、友達だったのに」

「“動くな（フリーズ）”とは言わねえ。抵抗してみろよ。同僚（イヌ）殺しは、オレたち警官（イヌ）にとって最大のタブーだ。この場で殺してやる」

（抵抗した）「ぐわー！」

（逃走した）「逃げられると思うなよ！」

「被疑者逃走！　至急手配願います。『①イヌ』を追え！」（《制裁（パニッシュ）》が使用される）

◆結末

『①イヌ』が逃走したら。シーンを終了する。

●オープニング2：追うイヌ

シーンプレイヤー：『②イヌ』

登場：『①イヌ』は登場不可

◆解説

『②イヌ』のオープニング。機動捜査の“暴走課長”レイから、『①イヌ』の追跡を命じられるシーンだ。なお『①イヌ』が汚職警官だという情報は、ワイルドハントの偽装だ。

『②イヌ』は捜査費用として5報酬点を得る。

◆描写

ブラックハウンド基地、機動捜査課のオフィス。いつになくピリピリした面持ちの“暴走課長”レイが、『②イヌ』に指令を伝える。

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「残念な報せだ、『②イヌ』」

「『①イヌ』が組織犯罪課のロウ・シェパードを殺して逃げた」

「『①イヌ』のデスクやロッカーから、ドラッグ密売の証拠が出た。それを見咎められて、口封じのために殺したみたいだな。殺人課をはじめ他の課も、『①イヌ』を追って動き出した」

「機動捜査課の不始末は、機動捜査課の手でケリをつける。『②イヌ』、お前が『①イヌ』を裁け。お前が適任だ。よその連中に先を越されるな」

「オレはこれから査問会だ。今回の件で呼び出された」

「行け！」

◆結末

『②イヌ』が『①イヌ』追跡任務を受けたらシーン終了。

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●リサーチ1：査問会

条件：リサーチフェイズ最初のシーン
シーンプレイヤー：ルーラーシーン
登場：不可

◆解説

“暴走課長”レイが査問を受けるシーン。本アクトの重要ゲスト、柴宗一と“不信官”加賀美亨の顔見世のシーンだ。(*2)

柴はレイに《制裁(バニッシュ)》を使用し、アクト終了時まで動けなくする。レイを警戒しているのだ。

◆描写

ブラックハウンド基地の会議室。レイが居並の幹部隊員たちから叱責を受ける。

▼セリフ：穏やかな壮年の紳士（柴宗一）

「公安４課の課長、柴宗一(しば・そういち)です。本査問会の議長を務めさせていただきます」
「機動捜査課の『①イヌ』隊員が、組織犯罪課のロウ・シェパード隊員を殺害、逃走しました。この件につき、機動捜査課レイ課長の監督責任の有無を明らかにするのが、本査問会の目的です」
「まずは特別監察室長のご意見を伺いたい」

▼セリフ：“不信官”加賀美亨

「特別監察室、室長の加賀美亨だ」
「機動捜査課は、以前から規律違反が常態化していた。前任者の代から、課長による私物化が問題視されている。緩みきった綱紀が今回の事態を招いたのだ」
「殺害の動機が汚職にあるなら、それは機動捜査課全体に蔓延している可能性が高い」
「レイ課長の責任は重い。即時拘束し、徹底的に調査するべきだ」

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「調べたきゃいくらでも調べな。拘束でも何でも好きにすりゃあいい」
「てめぇのケツは、てめぇで拭くさ。この一件が片付いたら、不始末のケジメはつける」
「だが『①イヌ』はアンタらには渡さねえ。機捜の手でケリをつける。手ェ出すんじゃあねえぞ！」

▼セリフ：ほかの幹部たち

「貴様ァ！　その言い草はなんだ！」
「前任者の推薦、数々の英雄的功績から大目に見てきたが、その暴言はもはや許せん！」
（場は大騒ぎになり、査問どころではなくなる）

▼セリフ：柴宗一

「ああ、皆さん落ち着いてください」
「これでは査問になりませんな。レイ課長はしばし謹慎とし、最終的な処遇は事件解決後に再び討議しましょう」（《制裁(バニッシュ)》を使用し、レイに社会戦ダメージ［18：権力剥奪］を与える）

◆結末

査問会は大騒ぎとなり、混乱のうちに終了した。シーンを終了する。

●リサーチ2：追うイヌ、逃げるイヌ

条件：「●リサーチ１：査問会」の次のシーン
シーンプレイヤー：『②イヌ』
登場：『①イヌ』は自動登場

◆解説 1

キャスト同士が邂逅するシーン。キャスト間で会話を行なった後、描写２に移行する。

◆描写 1

逃走する『①イヌ』のもとに、『②イヌ』が現れる。追うイヌと追われるイヌ。その視線が錯綜する。

◆解説 2

ワイルドハントの汚職警官たち（エキストラ）が襲ってくる。彼らは口封じのために『①イヌ』を問答無用で殺害するつもりだ。『②イヌ』も『①イヌ』の協力者と認識し、まとめて始末しようとする。

キャストたちに対し、達成値１５（スートはスペード）の〈射撃〉による攻撃が行なわれる。リアクションを行なうこと。攻撃力はＰ＋５。判定を終えたら、宣言のみで汚職警官たちを撃退できる。

◆描写 2

会話が一段落すると、追手のブラックハウンドたちが現れる。彼らは『①イヌ』と『②イヌ』の周囲を取り囲む。

▼セリフ：ブラックハウンド（汚職警官たち）

「見つけたぞ、『①イヌ』。この警官殺(イヌ)しめ」
「“動(フリーズ)くな！”とは言わん。無警告での射殺許可も下りている」
「『②イヌ』、邪魔だてする気か？　なら共犯と見なす、一緒に死にな！」（攻撃を行なう）
（倒された）「ぬわー！」
（尋問した）「フン、何のことだ。我々は手配犯『①イヌ』を追っていただけだ」

◆結末

判定を終えたら、シーンを終了する。

(*2) 査問会
キャストが登場できないシーンなので、テンポよく読み進めること。ブラックハウンドという組織の内幕を描くシーンだが、不要だと判断したら行なわなくともよい（その場合、柴の《制裁》はこのアクトで使用しない）

●リサーチ3：疑惑の猟犬

条件：情報【公安４課】を調べた

シーンプレイヤー：『①イヌ』

登場：『②イヌ』は登場不可

◆解説

『①イヌ』が公安４課の柴の接触を受けるシーン。柴宗一がゴーストとして登場する。

柴は『①イヌ』に取引を持ちかけ、《真実（トゥルース）》を使用。メンバーのリストの所持に関する探りを入れる。(*3)

◆描写

追撃を振り切り、逃走を再開した『①イヌ』。そのポケットロンにコールが入る。

▼セリフ：柴宗一（ゴースト）

「どうも、公安４課の柴宗一と申します」

「『①イヌ』さん、あなたと取引をしたい」

「我々は、あなたを助けることができます。あなたの無実を証明する材料を提供しましょう。ただ、それにはロウ・シェパードから受け取ったものが必要です」

「あなた、彼から何か受け取っていませんか？」（《真実（トゥルース）》を使用）

（受け取っていない）「そうですか。残念ですが、それでは我々も動くだけの確証を得られない」

「何か思い出したらご一報を」（退場する）

◆結末

会話を終えたら、シーンを終了する。

●リサーチ4：ワイルドハント

条件：情報【ワイルドハント】を調べた

シーンプレイヤー：ルーラーシーン

登場：不可

◆解説

ワイルドハントの汚職警官が集まり、世間話をしながら襲撃の準備をするシーン。(*4)

このシーンの舞台裏で、ワイルドハントが【ワイルドハント】を調べたキャストに社会攻撃を１回行なう。この際、ダメージは［19：暗殺］を狙う。

◆描写

ブラックハウンドの押収品保管庫に、数人の隊員たちが集まる。所属部署も、年齢も、階級もバラバラだ。共通点は――彼らがみな、汚職警官であることだ。汚職警官たちは、押収品の武器を手に取り、品定めする。

▼セリフ：汚職警官たち

「これらは書類上では破棄されたものです。記録には残りません」

「ありがとう。キミもメンバーだったとはな。人は見かけによらないものだ」

「病気の妻の手術代が必要で、押収品に手をつけましてね。結局手術は失敗して、残ったのは汚職警官が一人ですよ」

「それは辛かったろう。私は賄賂を１回受け取ったら、ズルズル引きずり込まれてこのザマだ。キミはどうだ？」

「私のは自業自得ですわ。うっかり市民ランクつきの未成年を買ってしまって。いやあ、高くつきましたわ」

「まあ、堕ちてしまえばみんな一緒だ。理由など関係ない」

「そうですね。じゃあ、みなさん。『①イヌ』を殺しに行きますか。我々の明日のために」

「ワイルドハントのために」

「ワイルドハントのために」

◆結末

汚職警官たちは武器を手に、保管庫を後にする。社会戦の処理を行なった後、シーンを終了する。

(*3) 疑惑の猟犬

もしプレイヤーが柴の《真実》を「打ち消した方がいいのか？」と迷うようなら、その必要はないと伝えるとよい。ほとんどの場合では、「持っていない」ことが解るだけだ。このシーンの趣旨は、プレイヤーに柴を「重要人物だと認識させる」ことにある。

(*4) ワイルドハント

キャストが登場できないシーンなので、テンポよく読み進めること。汚職警官たちを描写するシーンだが、不要だと判断したら行わなくともよい（その場合、社会戦による攻撃のみ行なう）

ワイルドハント

イヌ１０レベルトループ　１００人

▼設定

公安４課の柴宗一が構築した、汚職警官たちの秘密組織。内部監査時に得た情報をもとに汚職警官を脅迫。仲間に引き込むことで組織を大きくしてきた。今やブラックハウンドのあらゆる部署にはびこる、巨大犯罪ネットワークだ。

「従わなければ罪を暴かれ、すべてを失う」という恐怖により、メンバーを支配している。またメンバー同士もお互いを知らないほどの徹底した秘密主義により、その存在は秘匿されてきた。

イヌのトループとして扱う。基本的に、シーンに登場することはない。アクトルールにより、メンバーのリストを手に入れなければ、攻撃や神業の対象にならない。

▼能力値／制御値

♠理性：13／15　♣感情：11／13

♥生命：12／15　◆外界：11／13

▼一般技能

２♠♧♡◆　★圧力

▼スタイル技能

３♠♧♥◆　ハンター：イヌ　（TOS105）

▼戦闘プラン

〈圧力〉〈ハンター：イヌ〉により、社会攻撃を行なう。社会戦ダメージ＋９。

●リサーチ5：託されたもの

条件：サラのアドレスへ向かった
シーンプレイヤー：『①イヌ』
登場：〈社会：企業〉／SR：イエロー

◆解説

ロウの娘･サラに会う。サラは警察情報には疎く、『①イヌ』のことも知らない。

ロウからサラに贈られたプレゼントには、記録メディアが隠されている。この記録メディアが、メンバーリストを含むロウの捜査の記録だ。特に宣言することなく発見・回収できる。このシーン以降、【捜査記録】をリサーチ可能になる。

◆描写

寄宿舎の応接室で、ロウの娘･サラと面会できた。

▼セリフ：サラ・ブロンディ

「パパのこと？　悪いけど、力になれないと思うよ」
「よく知らないんだよね。ママと離婚して長いし、月１度しか会わないのによくすっぽかすし。殺されたって聞いても、あんまり実感が沸かないんだ」
「送られたもの？　これだよ」（プレゼントの人形を渡す）
（人形を調べている間、勝手に喋り続ける）「そんな歳でもないのに、突然贈りつけてきてさ。私のこと、ずっと子供のままだと思ってたんだろうね」
「でも来月、一緒に出かける約束したんだ。ＶＩＶＡはらいそのチケットで娘のゴキゲンとりなんて、バカみたいでさ。つい、ＯＫしちゃったんだよね」
「結局、約束のひとつも守れやしないんだ」
（別れ際に）「パパはさ、あんまりいいパパじゃなかったよ。でも、殺されなきゃならないような、ひどい人じゃなかったよ」
「犯人、つかまえてね」

◆結末

捜査記録を手に入れたら、シーンを終了する。

●リサーチ6：堕ちた猟犬

条件：情報【ワイルドハント】【捜査記録】を調べた
シーンプレイヤー：『②イヌ』
登場：『①イヌ』は自動登場

◆解説

真相を知ったキャストたちのもとに、公安４課を率いる柴宗一が現れる。柴はキャストたちを懐柔しようとする。(*5) 交渉が決裂したら、クライマックスフェイズへ移行する。この際、【ＳＰＳ：ワイルドハントを告発する】（５点）を提示する。

◆描写

ついに真相をつきとめた。だがそこに、公安４課の柴宗一が、ワイルドハントの汚職警官たちを連れて現れる。

▼セリフ：柴宗一

「やれやれ、すべてを知ってしまいましたか」
「こうなっては、もはや始末するしかない。ですがその優秀さを買って、最後にひとつ提案しましょう。そのリストをこちらに渡して、仲間になりませんか？」
「悪徳がはびこるのは世のさだめ。クズどもを食い物にすることが、どれほどの罪だというのでしょう」
「クズどもはどうせ罪を犯す。それをただ裁いても、給料分にしかなりません。利用して、利益を生み出す方が生産的ってものでしょう」
（断った）「いやぁ、お若い。その若さが命取りだ」
「それでは彼――“ドッグイーター”の餌食となってもらいましょう」

◆結末

柴の陰から、存在感の虚ろな警官がすっと現れる。柴と彼の部下たちは一斉に武器を構える。ＳＰＳを提示し、クライマックスへ移行する。

(*5) 堕ちた猟犬
ここで柴の誘いに乗ったキャストは、クライマックスフェイズに登場できないものとする。「誘いに乗ったフリをしてその場をしのぎ、隙を突きたい」だけの場合、柴は〈オシログラフ〉を使用してそれを見抜き、襲いかかる。

No Image

ロウ・シェパード
エキストラ（イヌ）

▼設定
「誰にも話せないってのは、つらいな」

ブラックハウンド隊員。組織犯罪課に属しているが、真の所属は特別監察室。身内の腹を探る嫌われ仕事だ。

実直で気のいい男だが、その秘密の多い生活がプライベートにも影響し、妻に逃げられ娘・サラの親権も失った。スパイとして仕事で嘘をつくのは得意だが、プライベートでは不器用な性格。『①イヌ』のことは、秘密抜きに信頼できる友人だと思っていたようだ。

汚職警官を装って公安４課――ワイルドハントに接触させ、情報を集めていた。しかし察知され、“ドッグイーター”の手にかかる。彼が最後に捜査記録を託したのは、『①イヌ』だった。『①イヌ』が娘・サラから捜査記録を手に入れ、しかるべき相手（『②イヌ』）に接触することを信じて死んだ。

No Image

サラ・ブロンディ
エキストラ（マネキン）

▼設定
「よく知らないんだよね、パパのこと」

ロウの娘。１０代前半、全寮制の学校に通っている。父親に対してはさめており、無関心。ただ、月１回の面会を疎ましく思うほど嫌っているわけではないようだ。血筋ゆえか、間違ったことは嫌いな性分。

■情報項目 (*6)

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。加えてキー・ハンドアウトの情報項目を調べられる。

共通：ロウ・シェパード殺害事件、ロウ・シェパード
『①イヌ』：『②イヌ』の動き
『②イヌ』：『①イヌ』の動き

◆ロウ・シェパード殺害事件

〈社会：警察〉〈コネ：『①イヌ』〉

10　組織犯罪課のロウ・シェパードが、機動捜査課の『①イヌ』に殺害された事件。
12　ロウに不正行為の証拠を握られた汚職警官『①イヌ』が、口封じのために殺したとされる。
14　殺害の手段は、【ドッグイーター】と呼ばれる殺人鬼のそれに似ている。

◆ロウ・シェパード

〈社会：警察、ストリート〉〈コネ：ロウ・シェパード〉

10　組織犯罪課に所属する隊員。『①イヌ』に殺害された。
12　最近、妙に金回りが良くなっていた。
14　ロウは汚職警官だ。犯罪組織から賄賂を受け取っていた。
16　内部監査を担当する【公安４課】にマークされていた。

◆『①イヌ』の動き

〈社会：警察〉〈コネ：『①イヌ』〉

8　ロウ・シェパードを殺害して逃走中。
12　ロウは死の直前に、『①イヌ』と連絡を取った形跡がある。連絡の内容は不明。

◆『②イヌ』の動き

〈社会：警察〉〈コネ：『②イヌ』〉

8　ロウ・シェパードを殺害犯『①イヌ』を追跡中。
12　何者かと密かに連絡をとっているようだ。連絡先と内容は不明。

◆ドッグイーター

〈社会：警察、ストリート〉

10　警官ばかりを狙うという、謎の殺し屋。
13　捜査の網を巧みにかいくぐっており、未だ正体を掴めていない。警察の捜査情報に通じていることから、表の顔は警官と思われる。
16　カゲムシャのスタイルと、神業変更技能〈潜伏者〉を有する。

◆公安４課

〈社会：警察、企業、メディア〉

10　ブラックハウンド公安部に属する部署。内部監査を担当する。
12　課長は【柴宗一】。

◆柴宗一

〈社会：警察、企業〉

10　ブラックハウンド【公安４課】の課長。穏やかな物腰の紳士。
12　その柔和な物腰と裏腹に、ささいな不正の臭いも嗅ぎ付ける辣腕の捜査官。
14　４課のスタッフを完全に掌握し、手足のように指揮する。クロマクのスタイルと〈代理人〉のスタイル技能を有する。

◆捜査記録 (*7)

（※『①イヌ』が調べた場合）
〈電脳〉〈社会：警察、テクノロジー〉

10　特殊な暗号化処置が施されており、解読できない。

（※『②イヌ』が調べた場合）
〈電脳〉〈社会：警察、テクノロジー〉

18　暗号化を解除した。【ワイルドハント】の詳細が記録されている。ワイルドハントの中枢は【公安４課】だ。４課が内部監査で得た情報を、脅迫の材料に利用している。課長の【柴宗一】が、このネットワークを構築した元凶である。メンバーのリストを手に入れる。【ワイルドハント】の情報を調べていれば、以後攻撃や神業の対象にできるようになる。

◆ロウの隠したもの

〈社会：警察〉〈コネ：ロウ・シェパード〉

10　【ワイルドハント】という犯罪組織に関する、捜査情報を記録した記憶メディアだ。
13　ロウは死の直前に、密かに娘のサラ宛の荷物を送っている。非合法の業者を使用しており、記録には残っていない。サラは全寮制学校の寄宿舎に住んでいる（アドレスを得る）

◆汚職警官たち

〈社会：警察〉

10　現在、ブラックハウンド内には汚職警官たちの秘密組織がはびこっている。
13　【ワイルドハント】と呼ばれる犯罪ネットワークだ。

(*6) 情報項目
なお一部の情報項目には、偽装情報が書かれている。キー・ハンドアウトや重要ゲスト紹介などの記述と矛盾があった場合、そちらの内容が真実である。

(*7) 捜査記録
捜査記録には特殊なプロテクトがかけられており、解読には特別監察室の隊員のみが使用できる暗号化キーが必要だ。つまり、読み解くには『②イヌ』の協力が必要だということだ。

◆ワイルドハント

〈社会：警察〉

10　ブラックハウンド内部にはびこる、汚職警官たちの犯罪ネットワーク。

12　犯罪行為に手を染めた警官の弱みを握って取り込むことで成長し、現在ではハウンドのあらゆるセクションに潜伏しているという。

14　メンバーは「従わなければ悪事を暴露する」と脅迫され、ネットワークのためにまた別の悪事に加担させられる。メンバーは他のメンバーの顔すら知らず、ネットワークの主催者すら不明。徹底した秘密主義により、尻尾を掴ませない。

18　イヌの１０レベルトループとして扱う。人数は１００人。シーンには登場しない。アクトルールにより、メンバーのリストを手に入れなければ、攻撃や神業の対象にできない。

ＲＬへのアドバイス

◆ブラックハウンドの組織構成

本アクトでは、ブラックハウンドの内部事情を扱う。『BTD』p.27の「ブラックハウンド機動捜査課」「公安部」「特別監察室」については、目を通しておくとよいだろう。特に、本アクトの真の敵である「公安４課」と、『②イヌ』の所属する「特別監察室」には注意が必要だ。この２つは「似たような機能を持つ別の部署」だ。プレイヤーに混同される恐れがある。

◆ダブルハンドアウト

『BHD』で追加されたダブルハンドアウトルールは、複雑なルールだ。

しかし本アクトの場合、必ずしもそうではない。ペルソナ・ハンドアウトの時点でキャストは「逃げる者」「追う者」に分かれている。だがどちらか一人がでもキー・ハンドアウトを公開すれば、協力が可能だと解るはずだ。

シンプルな構造であり、またキャスト人数も２人と少人数で、不確定要素も少ない。ゆえに、難易度はそれほど高くはない。身構えずに気楽に遊んでもらいたい。

◆《制裁》の使用想定

本アクトにおける《制裁》の使用想定は、以下の２つだ。

・『①イヌ』の抹殺ダメージの治癒

・ワイルドハントの告発（抹殺）

クライマックスで苦戦したなどの理由で、ワイルドハントに《制裁》を使用できないこともあるだろう。その場合、汚職警官たちの動きは一時的に鎮静化するが、根絶はできない。その後、別の運営者（詳細は設定しない）のもとでネットワークは再生する。次はより狡猾に、より慎重に、警察組織の闇に潜むことになるだろう。

ただ「プレイヤーがどうしても他の目的で《制裁》を使用したい」などのケースもあるだろう。その場合、ＲＬはレイカ加賀美の神業を使用するとよい。テストプレイにおいても「柴を裁くために《制裁》を使いたい」という希望があったため、加賀美の《制裁》で対応した。

ミッション・シーン

MISSION SCENE

●ミッションシーン：『①イヌ』

条件：『①イヌ』がキー・ハンドアウトを公開した
シーンプレイヤー：『①イヌ』
登場：キャストの登場は不可

◆解説

『①イヌ』のミッションシーン。ロウとの本当の関係を描く。描写２はオープニングの直前の状況となる。

◆描写１

死んだロウと『①イヌ』は友人だった。その日も、他愛のない世間話をしたものだった。

▼セリフ：ロウ・シェパード

「よう『①イヌ』、調子はどうだい」
「こっちは相変わらず忙しいぜ。もうすぐ娘との、サラとの月１回の面会日なんだが、このぶんじゃ今月もすっぽかしちまうな」
「まあ、おれにできることは、せいぜい稼いで養育費を送ってやることさ。会ってくれるだけマシだと思うよ」
「お前は、うまくやれよ」

◆描写２

だがすぐ後に、ロウから通信が入った。随分と切羽詰った様子だ。

▼セリフ：ロウ・シェパード（ゴースト）

「『①イヌ』、ロウだ。頼みがある」
「オレはハウンド内にはびこる汚職警官のネットワークを調べていた。だが、奴らに嗅ぎ付けられた」
「奴らはどこにでもいる。誰も信じられない。お前だけが頼りだ、奴らを告発する力になって欲しい」
「切り札はある。ある場所に、オレが調べた組織のメンバーリストを隠した」
「詳しいことは、これから会って話そう」

◆結末

その直後、『①イヌ』は物言わぬ遺体となったロウを発見し、追われる身となった。『①イヌ』がリストを手に入れることを決意すると、シーン終了となる。

●ミッションシーン：『②イヌ』

条件：『②イヌ』がキー・ハンドアウトを公開した
シーンプレイヤー：『②イヌ』
登場：キャストの登場は不可

◆解説

『②イヌ』のミッションシーン。オープニングの直後のシーンとなる。真の上司である加賀美から、ロウの捜査記録の回収を命じられるシーン。

◆描写

ブラックハウンド基地内の、使われていない空き部屋。機動捜査課のオフィスを出た『②イヌ』が、人目を避けて入室する。部屋では“本当の上司”が待っていた。

▼セリフ：“不信官”加賀美亨

「来たな、『②イヌ』。誰にも見られなかったろうな」
「私はこれから査問会に出なければならん。手短に済ませよう」
「死んだロウ・シェパードはお前と同じ、特別監察室の捜査員だった」
「彼はある汚職警官のネットワークに潜入し、その全容を捜査していた。恐らくは口封じのために殺された」
「ロウの死の真相を調べ、彼の任務を引き継げ」
「ロウ殺害犯として逃走中の『①イヌ』は、ネットワークのメンバーの可能性が高い。手始めに『①イヌ』を追え。他の部署に先を越されるな」
「それと機動捜査課のレイ課長だが、くれぐれも気取られるな。猪突猛進のようでいて、妙に鋭いところがある。あれを野生の勘とでも言うのか」

◆結末

『②イヌ』が『①イヌ』追跡を開始したところで、シーン終了となる。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●クライマックス：イヌども相喰らう

◆解説

柴宗一と“ドッグイーター”、そして公安４課と決着をつけるシーン。カット進行となる。

◆カット進行

キャストたちは１つのエンゲージにまとまっている。そこから近距離に、柴宗一および汚職警官トループ１グループ、“ドッグイーター”がそれぞれ別のエンゲージで位置している。

◆描写

かくして、柴率いる公安４課――ワイルドハントとの死闘が始まった。

▼セリフ：“ワイルドハント”柴宗一

「紹介しましょう。彼は“ドッグイーター”。私の忠実な飼い犬です」

「無口で無愛想ですが、役に立つ人材です。ロウ・シェパードの時も、彼がいてくれて助かりましたよ」

「私のワイルドハントを潰させはしません。あれだけのネットワークを構築するまでに、随分手間をかけましたからね」

（『①イヌ』に）「機動捜査課はどうしてこう、諦めが悪いのでしょうね。あの課長の薫陶でしょうか。厄介なことです」

（『②イヌ』に）「あなたも特別監察室でしたか。忌々しい。あそこができてから、色々とやり難くなりましたよ」

（倒された）「くそっ、こんなクズどもに……！」

▼セリフ：“ドッグイーター”

「コロス……」

（倒された）「コロ、ス……」

◆結末

敵ゲストを倒せば、カット進行は終了となる。エンディングフェイズへ移行する。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

次に提示するのはエンディングの一案である。プレイヤーからの要望に合わせて、自由に変更して構わない。

●エンディング１：猟犬の墓標

◆解説

『①イヌ』のエンディング。サラとロウの墓参りに行くシーンだ。

◆描写

『①イヌ』とサラは、ロウの墓参りに来ている。

▼セリフ：サラ

「『①イヌ』さん、パパの仇を討ってくれて、ありがとう」

「お礼って言っちゃなんだけど。ＶＩＶＡはらいそ、一緒に行かない？　チケット、無駄にするのも何だしさ」

「パパの話をしてよ。私、よく知らないから」

（墓標に）「それじゃあパパ、また来月」

◆結末

会話を終えたら、シーンを終了する。

●エンディング２：あるいは裏切りという名の犬

◆解説

『②イヌ』のエンディング。加賀美に労われるシーンだ。

◆描写

『②イヌ』は、特別監察室室長・加賀美に、今回の一件を報告していた。

▼セリフ：“不信官”加賀美亨

「よくやった。犠牲は大きかったが、ワイルドハントを根絶できたことは喜ばしい」

「レイ課長から伝言を預かっている。『①イヌ』を助けてくれて感謝する、だそうだ。食えない女だ」(*8)

「潜入は発覚したが、レイ課長と機動捜査課は要警戒対象だ。貴様には引き続き、監視を続けてもらう」

「……だが、くれぐれも機捜の色に染まることがないように」

◆結末

会話を終えたら、アクトを終了する。

(*8) レイはどこまで知っていたか？

レイは『①イヌ』の無実を、根拠はないが確信していた。また『②イヌ』の潜入も、薄々感付いていた。そして経験により培った「勘」で、『②イヌ』を動かすことが最も良い結果に繋がると、本能的に察したのだ。論理を超えた“結果への嗅覚”こそが、レイが機動捜査課の課長を任されている所以だ。

“ワイルドハント”柴宗一

フェイト、クロマク●、イヌ◎

▼設定

「私にも、老後の貯えってものが必要でしてね」

ブラックハウンド公安４課課長。内部監査で得た情報を利用して汚職警官たちを脅迫し、犯罪ネットワーク・ワイルドハントを構築した張本人。情報を武器に相手を心理的・社会的に追い詰め、私腹を肥やす。穏やかな紳士の皮をかぶった悪党。

▼神業

□不可知　■制裁　□神出鬼没

▼能力値／制御値

♠理性：６／13　♣感情：６／13
♥生命：４／11　◆外界：７／11

▼戦闘データ

【CS】８　【AR】１
【防御力】S：２／P：２／I：２

▼一般技能

３♠♣♡◆　知覚
３♠♣♡◆　★心理
３♠♣♡◆　★自我

▼スタイル技能

１♤♧♡◇	代理人	(CTL69)
１♤♧♡◇	汚職警官	(BTD86)
２♤♧♡◇	シャープアイ	(TNX198)
２♤♣♡◆	オシログラフ	(TNX198)
２♤♣♡◆	帝王のオーラ	(TNX201)
２♤♣♡◆	ハンター：イヌ	(TOS105)

▼アウトフィット

・フォーマリティ……電：15／隠：14（TNX238）
防具
・キャッシュ（報酬点10）

▼戦闘プラン

メインプロセスでメジャーアクションで〈知覚〉〈心理〉〈帝王のオーラ〉〈ハンター：イヌ〉による精神攻撃を行なう。達成値＋２、ダメージ＋６。〈知覚〉を組み合わせなければリアクションできない。
サンプルキャラクターを使用している場合、『②イヌ』を優先的に攻撃する。
《腹心》は〈代理人〉で防御系神業（《電脳神》でダメージを防ぐ）として使用する。

“ドッグイーター”

カゲ●、イヌ、カゲムシャ◎

▼設定

「……コロス」

ハウンドでも閑職の生活安全課に所属する、目立たないヒラ隊員。裏の顔は、警察という社会的立場を利用して殺人を楽しむサイコパスだ。その正体を知った柴が、ワイルドハントの暴力装置として飼っている。ハウンド内では「警官だけを殺す殺し屋」として、一種の都市伝説扱いされている。

▼神業

□不可知　■制裁　□神出鬼没

▼能力値／制御値

♠理性：８／13　♣感情：４／13
♥生命：６／13　◆外界：４／９

▼戦闘データ

【CS】９　【AR】１
【防御力】S：５／P：５／I：７

▼一般技能

３♤♣♥◆　★回避
３♠♧♥◆　★白兵
３♤♣♡◆　★自我

▼スタイル技能

１♤♧♡◇	潜伏者	(CTL87)
４♠♣♥◆	薄影	(TOS74)
３♤♣♥◆	人格障壁	(TNX222)
２♠♧♥◇	死点撃ち	(TNX209)
４♠♣♥◆	ハンター：イヌ	(TOS105)
３♤♣♥◆	緊急回避	(TNX222)

▼アウトフィット

・犬牙……電：18／隠：12（TNX232）
攻：S+4　受：１　射：至近（投擲時は［射：近］となる）
・アーマージャケット……電：12／隠：12（TNX238）
・スキンメイル……電：15／隠：16（TNX239）
・ヘビーフレーム……電：15／隠：16（CTL100）
・閃鋼……電：16／隠：15（TNX241）
神経加速装置。セットアップ使用で【CS】＋６。
・辰刃＋遍刃……電：15／隠：15（TNX240）
マイナー使用で、そのメインプロセスの〈白兵〉達成値＋２。
遍刃（BTD102）の効果換算済。
・ハンティングアシスト……電：16／隠：14（CTL99）
〈ハンター〉の対象へ与える攻撃の判定達成値＋１。

▼戦闘プラン

セットアップに閃鋼を使用、【CS】＋６。
メインプロセスではマイナーアクションで辰刃を使用。メジャーアクションで〈白兵〉〈死点撃ち〉〈ハンター：イヌ〉による攻撃を行なう。達成値＋３、攻撃力はX＋１６。サンプルキャラクターを使用している場合、『①イヌ』を優先的に攻撃する。
攻撃を受けた場合、肉体戦なら〈回避〉〈緊急回避〉、精神戦なら〈自我〉〈人格障壁〉でリアクション。いずれも対決に負けても受けるダメージを５点軽減する。
《神出鬼没》は〈潜伏者〉で防御系神業として使用する。

汚職警官トループ

イヌ５レベルトループ（人数：２０）

▼設定

ワイルドハントの汚職警官たち。

▼能力値／制御値

♠理性：８／10　♣感情：６／８
♥生命：７／10　◆外界：６／８

▼戦闘データ

【CS】５　【AR】１
【防御力】S：１／P：１／I：２

▼一般技能

２♠♧♥◆　★射撃

▼スタイル技能

３♠♧♥◆	猟犬の牙	(TOS105)
１♤♧♡◇	汚職警官	(BTD86)

▼アウトフィット

・MP21……電：12／隠：12（TNX234）
攻：P+5　受：-　射：近
・アーマージャケット……電：12／隠：12（TNX238）

▼戦闘プラン

〈射撃〉〈猟犬の牙〉により、物理攻撃を行なう。肉体戦ダメージ＋６。

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。
『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。
本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。
また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。
ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。
シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。
ホームページ（http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/）の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。
（このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります）

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎V A THE AXLERATION　投稿型シナリオ共有サイト

Neuro/CrowD

投稿シナリオ No.023 『DogRun!』

発行日：2016.2.23

執筆（著作権者）　SONE
イラスト　なし

企画　ニューロ／ＣＤ製作委員会
ＤＴＰ　まだら牛
素材　Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com
サイトＵＲＬ：http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/